

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	新規の病理診断マーカーの開発をめざした口腔扁平上皮癌とその前駆病変の病理組織学的研究		
② 実施予定期間	倫理審査委員会承認後 から 2021年3月31日		
③ 対象患者	④の対象期間中に当院歯科口腔外科において生検または手術を行った患者さん。		
④ 対象期間	2000年1月1日 から 2014年3月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	歯科口腔外科		
⑦ 研究責任者	氏名	池田栄二	所属 山口大学大学院医学系研究科 病理形態学講座
⑧ 使用する試料・情報等	<p>1. 試料 当院病理部に保管されている、生検または手術検体のパラフィンブロック。</p> <p>2. 情報 年齢、性別、術前・術後の治療内容、生検・手術検体の病理診断の内容、予後。</p>		
⑨ 研究の概要	<p>1. 背景</p> <p>口腔の扁平上皮癌は、口腔に発生する悪性腫瘍の大部分を占める組織型です。進行した症例では、舌に発生した場合には舌切除、歯肉に発生した場合には顎骨切除が必要になるなど、生活の質（quality of life）を損ないやすい癌のひとつであり、早期の段階で発見・診断・治療することが重要です。また、扁平上皮癌には至っていないものの、その前駆状態と考えられる病変があり、前駆病変を的確に診断・治療することも重要です。</p> <p>しかし、口腔の扁平上皮癌とその前駆病変では、病理診断の基準が明確には確立しておらず、病理診断の再現性が低いことが指摘されています。早期診断・早期治療のためには、信頼性・再現性の高い病理診断基準をつくる必要があります。</p> <p>近年、腫瘍には腫瘍幹細胞と呼ばれる細胞が含まれており、腫瘍幹細胞が様々な分化した腫瘍細胞を生み出して腫瘍組織を維持している、という考え方が定着しつつあります。口腔の扁平上皮癌とその前駆病変を、その考え方に立って観察し、腫瘍幹細胞を特徴づける物質を細胞が産生してい</p>		

	<p>るか調べることで、病理診断に役立つ新しい知見が得られるのではないかと考えています。</p> <p>2. 目的 腫瘍幹細胞の維持、増殖、浸潤、転移に関連するタンパク質に着目し、口腔扁平上皮癌とその前駆病変における発現を調べ、これらの病変に特徴的な発現パターンを明らかにします。</p> <p>3. 方法 生検または手術検体のパラフィンブロックからパラフィン切片を作製し、種々の染色や、RNA抽出とRT-PCR解析を行います。この場合のPCR解析は、遺伝子発現量を調べるための解析であり、塩基配列の異常（変異など）は調べません。これらの検討から、口腔の扁平上皮癌およびその前駆病変において特徴的な発現パターンを示す分子を同定します。</p>			
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2018年 3月 28日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	<p>研究計画書を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	山口大学大学院医学系研究科病理形態学講座の研究費を用いて実施します。			
⑯ 利益相反	ありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学大学院医学系研究科 病理形態学講座			
	電話	0836-22-2220	FAX	0836-22-2219